

三沢市立三沢病院小児科での実習を終えて

弘前大学医学部医学科5年 野々山航士

この度、2週間にわたり三沢市立三沢病院小児科での実習の機会をいただき、誠にありがとうございました。たくさん子どもたちと触れ合うことができ、私自身も多くの元気をもたらした2週間となりました。

外来診療の合間には、江渡先生、鈴木友希先生、鈴木峻先生、小谷先生、館田先生に、患者さんのご紹介を通して重要な疾患の特徴から治療法に至るまで、多岐にわたる医学的知識をご教授いただきました。中でも私が最も印象深く感じたのは、小児科医療の専門性である「小児独特の成長を背景に疾患を考察する必要性」についてです。子どもたちは常に成長していく存在であり、その成長段階を踏まえ、尊重しながら治療を考えていくという視点は非常に新鮮であり、小児科医の面白さを実感する機会となりました。



医学的知識だけでなく、小児科医として患児とそのご家族に対するアプローチの方法、考え方についても深く学ばせていただきました。お子さんの体調が優れない時、親御さんの心情は様々です。深く落ち込む方、焦りや不安からやや高圧的な態度をとる方、中には病気の重さに対して感情の動きが少ないように見える方など、多種多様な感情に接する中で、正直戸惑うことも少なくありませんでした。しかし、先生方が一貫して示されたのは、いかに「フラットなスタンス」で患者さんと接することが、患者さん自身にとっても、そして私たち医療者自身にとっても良いことであるかということです。特に、先生方の傾聴する姿勢と、常に適度な距離感を保たれる姿こそ大切であると学びました。

実習では、新生児から高校生まで幅広い年齢層の診察補助をさせていただき、心エコーを見学したり、時には患者の立場で治療を体験させていただいたり、私は非常に濃密な2週間を過ごすことができました。

院内での実習に加えて、院外での貴重な経験をさせていただいたことも、私にとって大きな学びとなりました。4か月健診や1歳半健診では、医師による医学的な診察という側面に加え、子どもとご家族が子育てにどのように向き合っているかを直接確認するという、心理的な目的があることを肌で感じました。

また、在宅治療をされている患者さん宅への訪問では、多職種連携の意義を身をもって実感しました。患者さんやそのご家族の治療、そしてQOL（生活の質）の維持には、様々な

医療従事者がそれぞれの専門的な視点から職務にあたることがいかに大切であることを深く認識しました。

この 2 週間の実習を通して、小児科医療の奥深さ、患者さんとそのご家族への寄り添い方、そして地域医療における多職種連携の重要性など、私は多くのことを学ばせていただきました。今回の経験を今後の学習に活かし、将来の医療人として成長していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

実習期間：2025.6.9～2025.6.20